



作物名	適用作虫名	希釈倍数 (倍)	使用時期	本剤及びMEPを含む 農薬の総使用回数	使用方法
ほだ木	カミキリムシ類	350	成虫発生初期及び産卵期 (ほだ木の伏せ込み期)	2回以内	散布(ほだ木及びほだ木用笠木を同時に防 除する場合は希釈倍数を350倍とする。)
ほだ木用笠木		40			

### ◎薬効・薬害等の注意

- マツノマダラカミキリ成虫防除は後食防止を目的とし、成虫発生直前又は発生初期に時期を失しないように散布し、更に20日後(成虫発生最盛期直前)にもう一度散布すると効果的である。(効果)
- マツノマダラカミキリ成虫に対する150~200倍液の地上散布及び空中散布の単木処理をする場合、散布液量は、樹高10mの松1本当たり3ℓを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹冠部を中心に全面に散布する。(効果)
- 空中散布による単木処理の場合は、専用の鉄砲ノズルを用い、対象木の樹冠部を中心に適確に散布する。又60~180倍液(12~24ℓ/10アール)で空中散布する場合は、限定された地域(林分)を対象として単木処理に準じた方法(鉄砲ノズル)で適確に散布する。(効果)
- マツノマダラカミキリ幼虫に対する空中散布の単木処理をする場合、散布液量は、樹高10mの枯損立木1本当たり5ℓを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹幹と枝にむらなく散布する。(効果)
- マツノマダラカミキリ成虫防除(空中散布)の場合の投下薬量は10アール当り本剤200mℓを基準とするが被害林に使用する場合はその程度に応じて130~200mℓ内の一定量とする。投下薬量は、希釈倍数及び10アール当り散布液量を所定の範囲内で調節して所要の薬量になるようにする。(効果)
- 伐倒木処理の場合、厚皮部のカミキリムシ類やゾウムシ類には薬液を多目に散布する。(効果)
- 伐倒木処理の場合、降雨直後または雨天の散布はさけ樹皮が雨などで濡れているときは乾いてから散布する。(効果)
- さくらのコスカシバに対しては、その発生に応じて2~3回散布する。(効果)
- 大型散布機(ヘリコプターなど)で使用する場合は、各散布機種種の散布基準に従って実施する。
- アルカリ性の強い農薬との混用は避ける。(分解)
- ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかかからないように注意して散布する。(薬害)
- 対象樹種がヒノキの場合、一部のヒノキで落葉現象が生じることがあるので、あらかじめ切枝に薬剤を散布し、落葉が生じない樹であることを確認の上、散布する。(薬害)

### ◎空中散布としての注意

- 空中散布用薬剤として使用する場合は次の注意を守る。
  - ① 散布薬液の飛散によって他の動植物(特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂)に影響を与えないよう散布区域の選定に注意する。
- 空中少量散布(4~6倍液)に使用する場合はさらに次の注意を守る。
  - ① 微量散布装置以外の散布器具は使用しない。
  - ② 散布中薬液の漏れないように、機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行う。
  - ③ 特定の農薬(混用可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農薬との混用は行わない。
  - ④ 散布終了後は次の項目を守る。
    - a) 使用後の空容器は放置せず安全な場所に廃棄する。
    - b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。

### ◎安全使用上の注意

- 誤飲に注意。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。
- 眼に入らないよう注意。眼に入った場合には直ちに眼科医の手当を受ける。(弱い刺激性)
- 散布時は、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをし、衣服を換える。
- 作業時の衣服などは他と分けて洗濯する。
- かぶれやすい人は取扱いに十分注意する。
- 使用残りの薬液が生じないよう調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さない。また、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 水産動植物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、水源池、飲料用水、養魚池、養魚田等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことを注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、注意する。
- 無人ヘリコプターにより散布する場合は、対象松林の梢端が見える場所で行う。
- 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

治療法……硫酸アトロピン製剤又はPAM製剤の投与が有効。

魚毒性……空中散布の際は十分注意。

保管……密封(栓)し、火気をさけ、食品と区別して、直射日光のあたらない冷涼・乾燥した所。

- 空容器は植栽地や林地などに放置せず適切に処理する。